

J M 7 台木利用りんご樹の幼木～若木期（7年生頃） における低樹高仕立て法

【1 成果の内容】

(1) 成木時の結実部位 2～2.5mの高さを目標とする休眠期における低樹高仕立て法の手順は下図のとおりです。

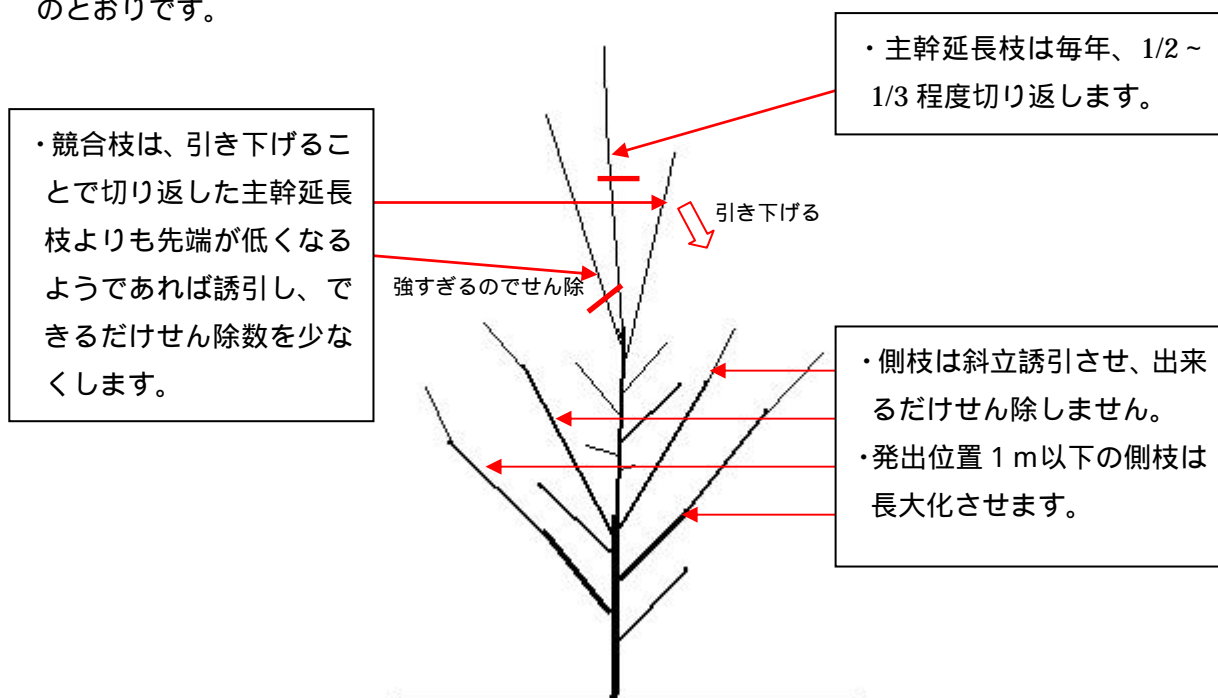


図 低樹高仕立て法の手順

(2) 低樹高仕立てを実施することにより、初期収量は向上し、着果位置が低くなります。なお、6年生樹における1m以下の側枝数は10本程度を目標とします。

(3) 5～6月に主幹延長枝の競合枝候補となる新梢を摘芯することで、休眠期せん定における主幹延長枝の競合枝せん除数は少なくなります。なお、摘芯後再伸長した新梢が、休眠期に誘引できないほど上方向に立ち上がって伸長した場合は摘芯の1ヶ月後頃に再摘芯します。

(4) 結実開始後は作業する空間を確保するよう通路に向けた側枝をせん除します。

【2 留意事項】

(1) 低樹高樹形は樹間5～6mが必要になることから、間伐することを前提に樹間2.5～3m間隔で植栽します。

(2) 幼木時に車枝を多く残すことは樹高を低くするためには有効な方法と考えられましたが、樹体のバランスを崩す可能性があるため、成木期以降は車枝を徐々にせん除します。